

冬季キャンプ経験が参加学生の感性に及ぼす効果

針ヶ谷 雅子 (明治薬科大学)

キーワード：感性，冬季キャンプ

1. 研究の背景・目的

「感性」とは、広義には「価値あるものに気付く感覚」ということができるが、単なる受け身の能力ではなく主体的な働きを持つと言われている（片岡，1990）。感性が豊かであれば、心が敏感に活発に働くので、自分が生きていることを実感し、意欲や生き生きとした態度が生まれるであろう。また、自己実現の過程においても、感性は不可欠なものである（上田，1969）。感性は人間の根本にあり、人間はその働きにより人間の全体性を発揮し調和を保ちながら、自己を豊かにし、人間関係を形成し、価値づけ・意味づけをしているのである。故に、感性を解放し育てていくことは、教育において原点となることであるといえよう。キャンプ活動においては、「自然」、「他者」、「自己」などとの関わりを、直接体験によって得ることができる。その様なキャンプ活動の特色から、キャンプ経験によって、特に「自然」に対する感性や「生命」、「人間」に対する感性を養うことができると考えられる。

冬の自然はさまざまな観点で夏季と異なり、参加者に新しい体験・気づきをもたらすため、感性を育む機会として、多くの可能性があると考えられる。夏季の長期キャンプ経験が、参加児童・生徒の感性を向上させるという結果を示した研究はあるが、冬季キャンプについての研究は非常に少ない。

本研究は、冬季キャンプ経験がキャンプ参加者の感性に与える効果について検討することを目的とした。

2. 方法

調査は、平成8年2月および3月に福島県楡原湖のキャンプ場で実施された、4泊5日の「武蔵丘短期大学冬季野外活動実習」に参加した大学1年生79名（1期39名，2期40名）に対し、キャンプ直前、キャンプ直後、キャンプ終了2ヶ月後の計3回実施した。

感性の測定には、感性に関して記述された文献およびキャンプ経験のある者の自由記述から項目を抽出し、独自に作成した26項目からなる感性測定尺度を用いた。また、この尺度は主因子法による因子分析により、4因子を得ている。事象の背景にある見えないエネルギーやつながりを見る感性に関する「事象の背景・つながり」因子、自然の美しさなどに対する感性に関する「自然」因子、自分、その他の生命に対する感性に関する「生命」因子、人間の感情などに対する感性に関する「人間」因子の4つである。得点は4段階評定で算出した。そして、感性の変化を検討するために、3水準（キャンプ直前、キャンプ直後、キャンプ終了2ヶ月後）の1元配置分散分析および多重比較を行った。

3. キャンプの概要

キャンプ参加者は、生活班として7～8名の班に分けられたが、活動はこの班を解体して行われた。食事は生活班が交代で作り、全員で会食した。宿泊は基本的にキャビンを利用したが、希望者は雪洞やテントによる雪中泊を行った。主なプログラムは、XCスキーを利用したツアー、自然観察、リュージュ遊び、雪洞・イグルー作り、スノーシアター（雪

の劇場作りとそれを利用したナイトパーティー), マインドクロッキー (雪中で1人の時間を過ごす) などであった。

4. 結果と考察

感性全体およびすべての因子において, キャンプ直後に1%水準で有意な向上が見られた。また, 感性全体および「事象の背景・つながり」因子, 「自然」因子, 「生命」因子においては, キャンプ終了2ヶ月後にもその効果が持続された。(表1, 図1)

冬季キャンプにおいては, さまざまな事象に対して直接触れることが多いため, 五感を働かせることにより感覚が研ぎ澄まされ, 反応が敏感になった結果, 感性が高まったと考えられる。特に, 冬季特有の雄大な雪山や広々とした雪野原, また, 雪上の足跡や食痕などの動物が存在する形跡や樹木の冬芽などに触れたことが, 自然の美しさや偉大さ, 生命の強さなどに気付くきっかけになったと推測される。また, 直接体験による経験は, 間接体験による経験と比較してより強く印象に残るといわれているが, 冬季キャンプにおける活動は, そのほとんどが直接体験であるため, キャンプ終了2ヶ月後まで安定した感覚として心に残ったと考えられる。

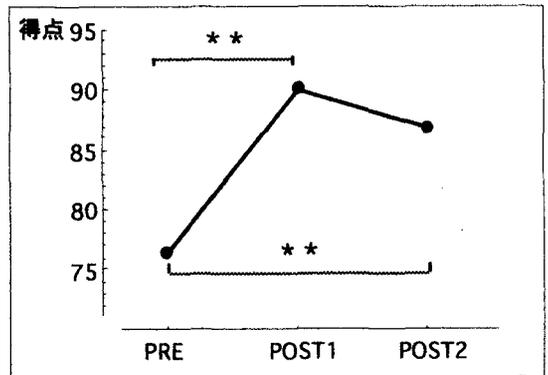


図1 感性得点の変化

表1 感性および各因子の変化

調査時期	PRE		POST1		POST2		分散分析 PREPOST	多重比較		
	M	SD	M	SD	M	SD		1	2	3
感性	76.48	11.67	90.15	8.87	86.78	10.01	***	**	**	n.s.
事象の背景	30.25	6.3	37.75	4.79	36.23	5.16	***	**	**	n.s.
自然	13.97	2.08	14.94	1.45	14.96	1.43	***	**	**	n.s.
人間	11.99	1.95	14.37	1.39	13.64	1.66	***	**	**	*
生命	13.42	2.44	15.59	2.24	14.93	2.55	***	**	**	n.s.

※1=PRE:POST1 2=PRE:POST2 3=POST1:POST2 *= $p<.05$ **= $p<.01$ ***= $p<.001$

5. 結論

調査の結果, 以下のことが明らかになった。

- 1) 冬季キャンプに参加した大学生の感性は, キャンプ直後に向上し, キャンプ終了2ヶ月後にもその効果が持続された。
- 2) 因子ごとにみても, すべての因子においてキャンプ直後に向上し, 「事象の背景・つながり」因子, 「自然」因子, 「生命」因子ではキャンプ終了2ヶ月後までその効果が維持された。

本研究では, 冬季キャンプ経験により参加した大学生の「感性」が向上することが明らかになった。「感性」は, 人間の精神的な健康を支える根本的な要素であり, 生涯にわたり求めていくものである。感性を豊かにし, さらに価値観を育てていくためには, 実感となる体験が必要であり, キャンプはその体験を提供する重要な機会である。プログラムや参加者の年齢, 性別の違いを考慮した検討が今後の課題となった。